

CLIPPEDIMAGE= JP403206821A

PAT-NO: JP403206821A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03206821 A

TITLE: BIRD NET FOR FRUIT TREE USING POLYOLEFIN RESIN

PUBN-DATE: September 10, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KATAOKA, ZENJIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

KATAOKA ZENJIRO

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP02001956

APPL-DATE: January 8, 1990

INT-CL (IPC): A01G013/10;B29D028/00 ;D04G001/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a bird net for fruit trees capable of surely preventing fruits from bird injury without any occurrence of pollution by constructing the net from a netlike unit, composed of a polyolefin resin such as polyethylene or polypropylene, having smaller meshes than the head of birds and a size so as to cover the whole fruit tree.

CONSTITUTION: Many notches 2 are alternately formed parallel in a polyolefin

resin film 1 such as polyethylene or polypropylene and the film is then drawn left and right in the direction perpendicular to the notches 2 and extended to provide a netlike form or polyolefin resin fiber is knitted to afford the netlike form. Thereby, a bird net 3 composed of a netlike unit having smaller meshes 4 than the head of birds is produced. The resultant bird net 3 is spread over a fruit tree so as to cover the whole fruit tree about the time when the fruits start ripening to protect the fruits from bird injury. After harvesting, since the net is made of polyolefin resin, the net may be removed, deposited, decomposed into water and gaseous carbon dioxide and diffused with action of sunlight in a short period without causing pollution.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報(A)

平3-206821

⑤Int. Cl.³ 識別記号 庁内整理番号 ⑬公開 平成3年(1991)9月10日
 A 01 G 13/10 A 7162-2B
 B 29 D 28/00 6949-4F
 D 04 G 1/00 B 7152-4L
 // B 29 K 23:00 4F
 審査請求 未請求 請求項の数 3 (全3頁)

⑭発明の名称 ポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網

⑰特 願 平2-1956

⑱出 願 平2(1990)1月8日

⑲発明者 片岡 善治郎 三重県三重郡楠町大字南五味塚915番地

⑳出願人 片岡 善治郎 三重県三重郡楠町大字南五味塚915番地

㉑復代理人 弁理士 岡田 英彦 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

ポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網

2. 特許請求の範囲

(1) ポリエチレンまたはプロピレンなどのポリオレフィン樹脂により、果樹全体を覆い、かつ鳥類の頭より小さい網目を有する網状体よりなるポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網。

(2) ポリオレフィン樹脂フィルムに交互に切り込みを切り込み、これを展張して網状とした請求項(1)記載のポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網。

(3) ポリオレフィン樹脂による糸を編んで網状とした請求項(1)記載のポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、果樹園において、果実の熟する期間のみ防鳥の役を果たし、収穫時において日光により自

然分解する防鳥網を果樹園業界に提供することを目的としたポリオレフィン樹脂による果樹防鳥網に関するものである。

(従来技術)

従来の果樹防鳥網は木綿糸またはナイロン糸などより編んだ網を果実の熟し始めるころ、果樹全体にかけておいて、収穫時になったら、切り裂いて取り除き、所定の場所に堆積していたが、この取り除き作業の手間が大きく、またこの取り除いた廃物の堆積はいつまでたっても腐食せず、邪魔物であるばかりか、公害を撒き散らしていた。

(発明が解決しようとする課題)

本発明は、果樹園の果実が熟し始める頃から収穫時までの約3ヶ月間だけ防鳥の役を果たしたら収穫時に切り離して取り外し、果樹園の一隅に堆積しておけば、日光の作用により、無害な物質に短期間で変質し、分解露消するものでしかも安価なものの開発が望まれていた。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は、上述の課題を解決するため、ポリエチレンまたはプロピレンなどのポリオレフィン樹脂によるフィルムまたは糸により、鳥の頭より小さい目の網を形成し、これを果実の熟し始めの頃、果樹全体を覆うように被せる。

〔作用〕

約3ヶ月日光に曝されて、収穫時になると、光分解寸前であるので、切り裂いて外し易く、外した廃物の網を屋外に堆積しておくと、光分解して水と炭酸ガスとなって放散する。

〔実施例1〕

実施例1はポリオレフィン樹脂フィルムを使用し、網を形成した例で、第1図に示すように、ポリオレフィン樹脂フィルム1に交互に平行に多数の切り込み2を切り込み、切り込み2と直角方向に左右に引くと第2図に示すような防鳥網3が形成される。網目4は鳥の頭より小さいのは勿論である。これを

収穫時までの約3ヶ月間は鳥害から衛ることができ、この間、日光の照射のため、光分解が進むので、収穫時の防鳥網の切り裂きによる取り外しが容易となった省力効果は極めて大きい。

(2) 取り外した廃物の防鳥網は野曝しにしておけば、短時間に水と炭酸ガスに分解して放散するので、公害が無い。

(3) このような光分解性の強いポリオレフィン樹脂を防鳥網に利用して特有の上記効果を奏することは画期的発明である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の実施例1の材料に切り込みを入れた平面図、第2図は同、展張して網状にした平面図、第3図は使用状態を示す斜視図、第4図は実施例2の平面図である。

〔主要部分の符号の説明〕

1 : ポリオレフィン樹脂フィルム

2 : 切り込み

果実の熟し始めの頃、第3図に示すように、果樹全体を覆うように被せ、約3ヶ月間の果実の熟成期間、日光Sに曝させる。約3ヶ月が過ぎて果実が熟し、収穫する頃には防鳥網3は日光Sにより分解寸前であるので、切り裂くことが容易で、廃物の防鳥網3も間もなく水と炭酸ガスに分解するため、公害を生じない。

図中、Bは鳥、Fは果実、Tは果樹を示す。

〔実施例2〕

実施例2は、第4図に示すようなポリオレフィン樹脂糸5による防鳥網3'で、その他は実施例1と同様である。図中、4'は網目を示す。

〔発明の効果〕

本発明は、上記の構成にしたので、次の効果を有する。

(1) 光分解性の強いポリオレフィン樹脂によるフィルムまたは糸によって防鳥網を形成したので、果実の熟し始めの頃、果樹全体に被せておけば、果実の収

3. 3' : 防鳥網

4. 4' : 網目

5 : ポリオレフィン樹脂糸

B : 鳥

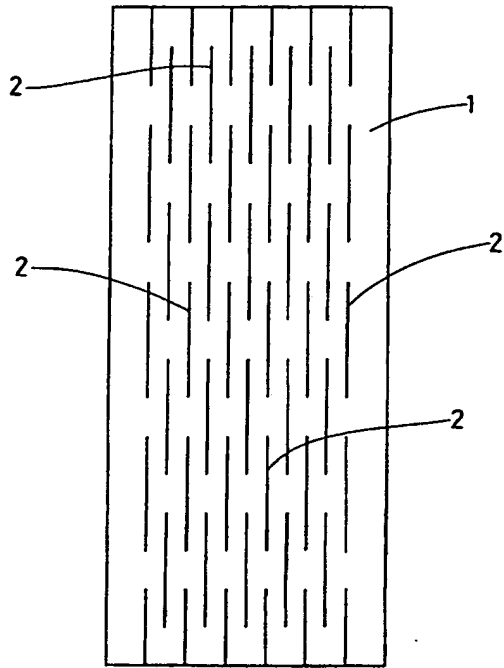
F : 果実

S : 日光

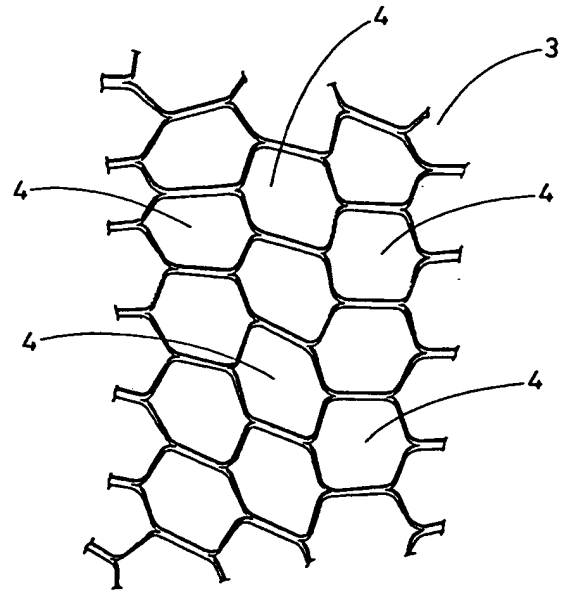
T : 果樹

代理人 弁理士 仙波 正 (外1名)

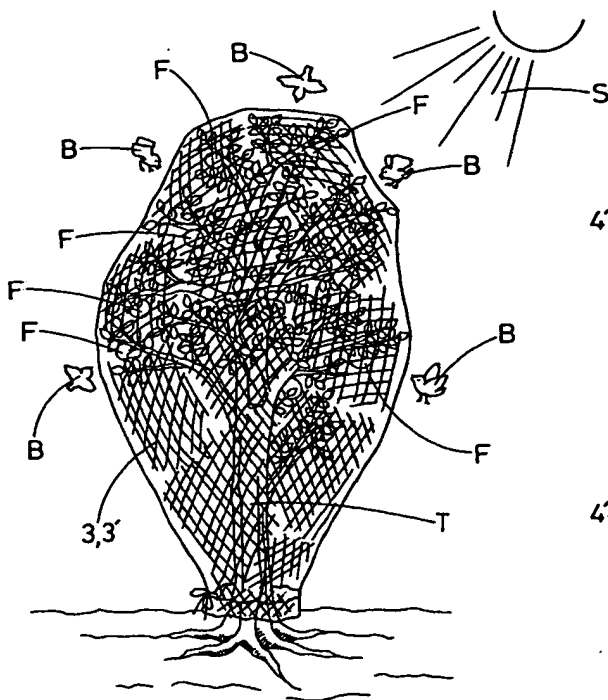




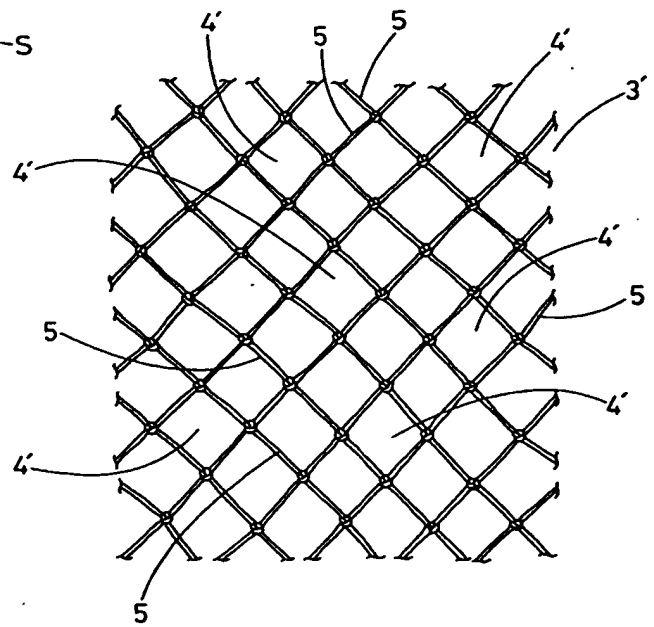
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図